

平成 20 年度 会津駒ヶ岳・田代山・帝釈山景観保全管理方針検討業務  
 (平成 20 年度 尾瀬国立公園拡張地域 湿原及び登山道調査業務)

本業務は、平成 19 年度に日光国立公園から分離独立し、単独の国立公園となった尾瀬国立公園の新規拡張地域である、会津駒ヶ岳・田代山・帝釈山地域について、地域の良好な自然環境を保全し、景観を良好な状態に維持するため、2 年間にわたって行われた検討会の取組として、本地域の適正な保全と利用に関する課題を取りまとめ、個々の対策の方向性を示したものである。

なお、本年度業務では二本のフォローアップ調査(下図参照)がなされ、その結果を整理して当該地域の景観保全管理方針を検討会にて策定した。

また、二本のフォローアップ調査のうち「湿原及び登山道調査業務」に関して取りまとめを担当した。本概要では景観保全管理方針検討委託業務についてとりまとめた。なお両業務とも、財団法人国立公園協会への職員出向にて行った。

尾瀬国立公園図 (赤実線内が拡張地域)



尾瀬国立公園の新規拡張地域の主な景観・興味資源



会津駒ヶ岳からの総岳方面眺望



雪田に咲くハクサンコザクラ(会津駒ヶ岳)

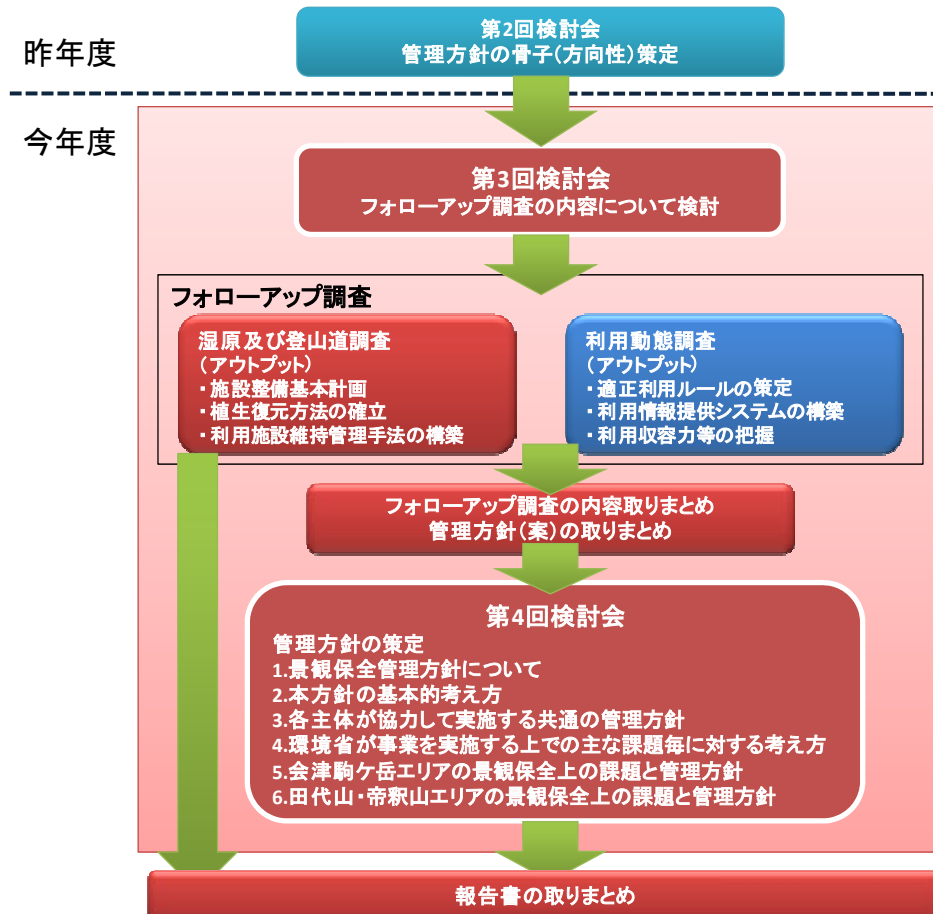


田代山湿原に咲くチングルマ群落



帝釈山～田代山間のオサバグサ群落(会津駒ヶ岳)

◇調査フロー(赤い部分が担当箇所)



◇フォローアップ調査結果から得られた保安全管理の課題

●全体共通課題

地域全体の共通課題としては、利用による脆弱な自然の荒廃など環境への影響が懸念される場所があることや、ニホンジカ被害拡大の防止策検討、情報提供やアクセス等の利便性向上、集中利用の分散、地域の管理体制の構築や関係主体間の役割分担などが下記のように挙げられた。

課題	内容
a. 植生の荒廃や利用施設の荒廃等による環境への影響懸念	・登山道や周辺植生の荒廃や木道や利用施設の湿原等への影響が懸念される。
b. 利用影響のモニタリングの推進	・木道の環境への影響が懸念されている ・登山道や周辺の植生荒廃が見られる。
c. 融雪期の利用による植生荒廃への対策	・特に融雪期の山スキー等の利用による植生荒廃に対策が必要
d. 本地域へのニホンジカの被害拡大の懸念	・旧尾瀬地区のように湿原植生への被害が広がらないように対策をとる必要がある。
e. 情報提供の推進	・利用のルールや国立公園内の資源の重要性や必要なマナーに関する情報が十分提供されていない
f. アクセスとアプローチの利便性向上	・公共アクセス不足や登山口駐車スペース不足 ・山麓登山口周辺の各集落(温泉等)との連携不足 ・登山口までの林道の取り扱いを検討する必要がある
g. 集中利用の分散と深い自然体験活動の推進	・「ふるさと山」の特徴を活かした魅力の多様化と、質の高い「深い自然体験」の提供と地域活性化を図る必要がある。
h. 地域の管理体制	・適正な保安全管理体制を整える必要がある。
i. 整備・管理の役割分担と主体間の連携	・維持管理等に関わる主体間の役割分担や連携不足を解消し、利用指導や、登山道等の安全管理・施設維持管理体制を構築する必要がある。

●路線・区間毎の課題

\* 会津駒ヶ岳登山線における保安全管理の課題

場所	課題
登山口	a. トイレの場所の情報不足 / b. 入山する際の情報不足と標識類の乱立 / c. 駐車スペースの確保と明示
登山道	a. 水場上の広場の休憩スペースが不明確 / b. 登山道の荒廃防止と周辺の植生保全
山頂	a. 山頂の展望が利かず、到達感が得られない
湿原	a. 木道の影響が懸念される箇所への取扱い / b. 植生復元対策後の取扱い明確化と新たな裸地対策 c. 湿原入口でのルール等の情報発信の充実と休憩スペース確保 / d. 湿原木道の中間地点並びに最奥地点での休憩スペースの確保 / e. 湿原内裸地の拡大防止と植生復元

\* 猿倉台倉高山線における保安全管理の課題

課題タイプ	課題
登山口	a. 馬坂峠のトイレの改善 / b. 駐車場の適正規模とアクセスに関する合意 / c. 入山する際の情報不足
登山道	a. 迂回ルートによる歩道幅と木の根の露出踏みこみ対策 / b. 帝釈山～田代山湿原間ぬかるみ対策 / c. 帝釈山～田代山湿原間の洗掘 / d. 岩場の危険箇所の安全対策の検討 / e. 帝釈山～田代山湿原間休憩スペースが不明瞭 / f. 迷いやすい箇所での誘導対策の検討 / f. 猿倉登山道の水路化・洗掘化の防止 / g. 田代山湿原～猿倉登山口間の休憩スペース確保
湿原	a. 湿原内の木道及び付帯施設のルート・位置の検討 / b. 湿原全体の休憩スペースの確保 / c. 湿原内裸地の拡大防止と植生復元 / d. 湿原の一方通行ルール等の情報発信の充実 / e. 田代山避難小屋横トイレの改善 / f. 小田代湿原内の迷い込み対策と一部植生荒廃の防止
登山口	a. トイレの場所が不案内 / b. 駐車場が不明確 / c. 入山する際の情報不足



湿原上に休憩スペースがなく、木道に利用者があふれる会津駒ヶ岳中門岳ループ～中門大池

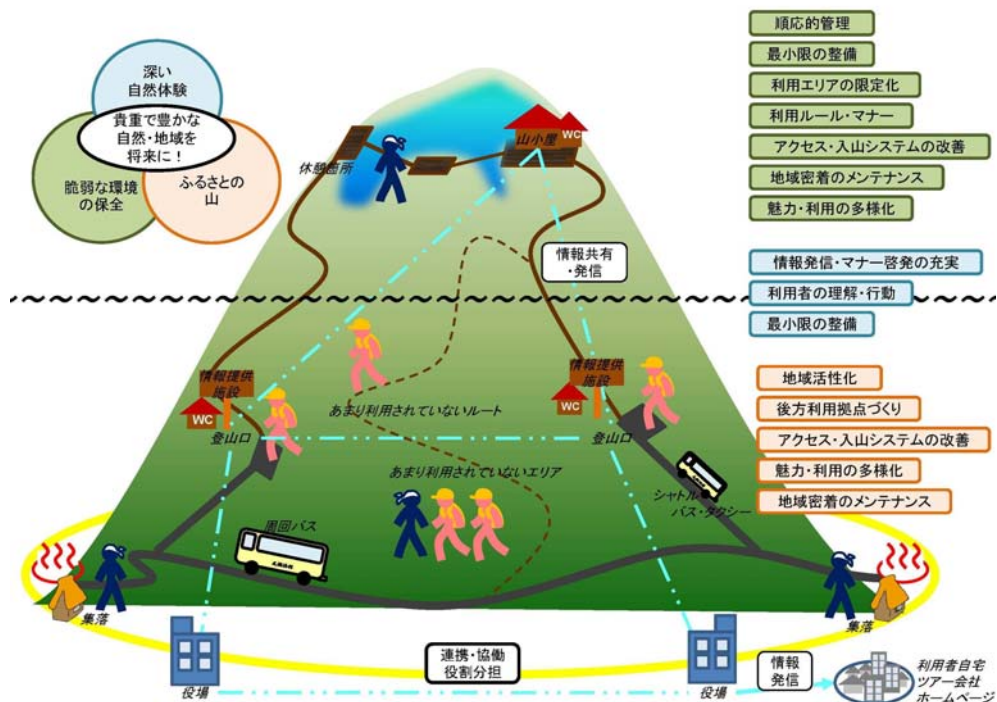


ハイカーの歩行と融雪水・雨水の流下による深掘れ

## ◇保安全管理方針

### 【基本的考え方】

- ・本地域は、幅広く利用者を受け入れる旧尾瀬地域と異なり、山稜雪田や山頂部の高層湿原などの「貴重で豊かな自然」が広がる地域であることから、比較的登山経験を積んだ利用者へ「深い自然体験」を提供するエリアととらえ、登山経験者が最低限持つ技術や装備でカバー可能な整備は行わず、自然環境を保全するために最低限必要な整備に力を入れる。
- ・上記のように経験のある利用者へに絞った整備・管理を行うことを利用者へ適切に発信し、理解や協力を促すために、関係機関のHPや登山口、湿原入口などで必要な情報提供を行う。
- ・管理方針は、安全性を確保しつつも、地元集落にノウハウがあり簡易で継続的に維持管理が可能な手法を採択する。既存施設を含め施設整備をした際には、継続的な自然環境や利用環境のモニタリングを実施し、それを整備や管理にフィードバックする順応的管理を取り入れる。
- ・また、地域密着型の山小屋・登山道の管理などのメンテナンスを継続・推進し、温泉宿泊客を対象としたシャトルサービス等の提供、地元ガイド育成と山麓林道のエコツアー利用などを通じ、国立公園の保全と合わせた地域活性化の推進を図る。



### 【共通保安全管理方針】

- ①登山道や利用施設の周辺植生・環境の保全対策、木道・休憩スペースの利用施設が湿原へ及ぼす影響の回避
- ②利用影響のモニタリングと順応的管理の実施
- ③融雪期の利用による植生荒廃への対策実施
- ④本地域へのニホンジカの被害拡大状況の把握と必要に応じた対策実施
- ⑤情報提供の充実(本地域への理解促進、現地のリアルタイム情報収集とシステム構築、情報ターミナル機能の構築、適切な場所と方法で必要な情報発信充実、自然解説ガイド育成、標識整備)
- ⑥アプローチとアクセス向上(各登山口周辺の後方利用拠点整備推進、シャトルバス導入)
- ⑦集中利用分散と深い自然体験活動推進(あまり利用されていない登山道やエリアの活用、地域のガイド育成やエコツアー、環境教育の実施、後方利用拠点での利用多様化促進)
- ⑧地域の管理体制充実(現地即応型の管理体制構築、支援)
- ⑨整備、管理の役割分担と主体間の連携(整備主体・維持管理体制の管理、保全・適正利用・管理のための常設の協議・協働機関の設置、現地即応型の管理体制の充実)

### 【路線・区間別保安全管理方針】

\*会津駒ヶ岳登山線、猿倉台倉高山線の各路線区間については、課題のある場所毎に詳細な管理方針を検討し、取りまとめた。